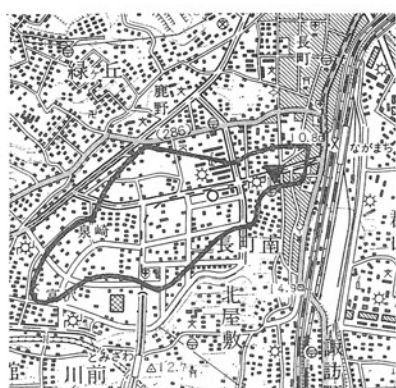


宮城・富沢遺跡

とみざわ

- 1 所在地 宮城県仙台市長町南
- 2 調査期間 一九九一年(平3)八月～十二月
- 3 発掘機関 仙台市教育委員会
- 4 調査担当者 五十嵐康洋
- 5 遺跡の種類 集落跡・水田跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(仙台)

富沢遺跡は、仙台市の南東部に位置し、広瀬川と名取川に挟まれた自然堤防から後背湿地にかけて立地している。この遺跡では、一九八二年の地下鉄建設に伴う調査で水田跡が重層して見つかかり、現在も各種の開発事業に伴う調査が継続して行なわれている。総面積は九〇haに及び、大部分の地点で弥生時代中期から近世までの水田跡が検出されている。また、数地点では

旧石器時代後期、縄文時代早期の生活面、中世の集落跡が検出されている。

今回木簡が出土した第七七次調査区は、遺跡全体の北東端の自然堤防上に位置している。検出された遺構は、弥生時代中期、古墳時代、近世以降の水田跡と中世の集落跡である。集落跡からは溝五条、土坑三基、ピット九七基、方形堅穴状遺構三基、掘立柱建物二棟、柱列一条が検出されている。出土遺物には木製品(木簡、箸、建築材)、須恵器、土師器、陶器、磁器、烏帽子の可能性がある漆製品等がある。遺構の年代は、検出状況や出土遺物から一三世紀～一四世紀に比定され、性格は、以前に調査した隣接する地区の成果と対照してみると、有力者の館跡に関連する施設であった可能性がある。木簡は、約四m×三mの方形堅穴状遺構から計三点が出土した。この遺構からは他に多くの種子類(イネ、トウガン、ソバ、ミツバ等)が出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「三斗三升」

・[□□□□]

146×23×3.5 051

樹種はヒノキ科ネズコと同定されている。

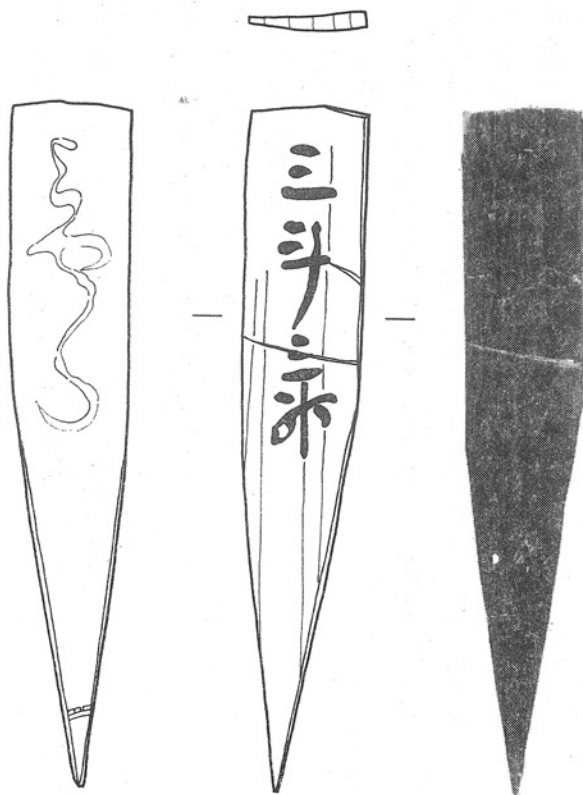
他の二点については、判読不能であったが、樹種は両者ともスギ科スギと同定されている。

9 関係文献

仙台市教育委員会『富沢―富沢遺跡第15次発掘調査報告書』(一九八七年)

仙台市教育委員会『富沢遺跡第35次発掘調査報告書』(一九九一年)

(五十嵐康洋)



木簡研究 第九号

巻頭言

田中 稔

一九八六年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 興福寺旧境内 藤原京跡 和田麿寺
橋寺 曲川遺跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 長
岡京跡(4) 平安京右京三条二坊八町 平安京右京五条一坊三
町 平安京右京五条一坊六町 平安京右京八条二坊二町 平
安京右京八条二坊十二町 伏見城跡 大坂城跡 安堂遺跡
津田トツバナ遺跡 萱振A遺跡 祢布ヶ森遺跡 但馬国府推
定地 初田館跡 福田片岡遺跡 清洲城下町遺跡(1) 清洲城
下町遺跡(2) 居倉遺跡 土橋遺跡 駿府城三の丸跡 東京大
学構内遺跡 浜野川遺跡 神照寺坊遺跡 浄琳寺遺跡 光相
寺遺跡 吉地薬師堂遺跡 胆沢城跡 根城跡 生石2遺跡
新青渡遺跡 松田柵跡 田名遺跡 曾万布遺跡 辻遺跡 富
田川河床遺跡 草戸千軒町遺跡 周防国府跡 中島田遺跡
大宰府跡 井相田C遺跡 吉野ヶ里遺跡

一九七七年以前出土の木簡(九)

平城宮跡(第三二次補足調査)

国語の表記史と森ノ内遺跡木簡

敦煌凌胡際址出土冊書の復原

漆紙文書集成

佐藤宗諱・橋本義則

正倉院木簡の用途―原秀三郎氏の所説に接して― 東野治之
岸俊男会長の思い出 平野邦雄

彙報

頒価 三八〇〇円 千五〇〇円